

安全安心

特集

加速する防犯まちづくり

日々の暮らしに大切な「安全安心」。

そのために、今、何が求められているのか―

「安全安心なまちづくり」へ向け、

地域が、行政が動き始めた。

暮らしを脅かす犯罪多発

小学1年生の女兒が犠牲となった広島市と栃木県旧今市市での誘拐殺害事件(平成17年)、今年、秋葉原で発生した通り魔事件や東金市での5歳児殺害事件…。

平穏な生活を襲ったこれらの事件は、わたしたちの暮らしを不安で包み込みました。

市内での年間刑法犯認知件数(千葉県警調べ)は、平成8年以降年々増加し、平成14年には過去最多となる4,048件を記録しました。その後、自主防犯活動の活性化により減少傾向にあるものの、平成



19年は2、422件。これは平成8年1、526件の約1.6倍と依然として高い水準です。

連携・協働による「防犯まちづくり」

このような状況の下、市では安全で安心して暮らせる地域社会を実現するための指針として、平成19年10月「成田市防犯まちづくり推進条例」を施行しました。この条例では、市民・事業者・市が、それぞれ役割を分担し、緊密な連携・協働により「防犯まちづくり」を行うこと、そのための関係施策を総合的・計画的に推進するための「推進計画」の策定や「推進協議会」の設置が定められています。

「安全安心」を守るには

市内の各地域ではパトロール隊を結成する団体が増え、その数は市への登録数で53（平成20年10月現在）に上ります。その日の防犯ベストで住宅地や通学路を見回る姿は、犯罪抑止につながり、地域へ安心感を与えています。

事業者の取り組みも始まりました。平成20年10月現在、市と19の事業者が防犯協力に関する覚書を締結。事業活動の中でステッカーなどの物品を用い、広く防犯のための啓発などを行っています。

市では、こうした活動を支援するため必要な用品を貸し出ししたり、防犯に関する情報を提供。また、青色回転灯を装備したパトロール車を導入し、各地区や通学路を巡回、きめ細かく安全確保に努めています。

「安全安心」を守るためには「その答えを求め、さまざまな取り組みが動き出しています」。

* 刑法犯認知件数：警察が被害届け出や告訴などにより、発生を認めた事件の数



市内の防犯をめぐる動き

- 平成14年 刑法犯認知件数が過去最多の4,048件を記録
- 平成15年7月 25の関係団体が成田地区防犯パトロール隊を結成
- 平成16年2月 成田ニュータウン自治会連合会が中心となり、成田ニュータウン防犯パトロール隊を結成
- 4月 市に生活安全部（現市民安全部）を新設
- 4月 市防犯事務所を設置し、青少年育成指導員を配置
- 7月 防犯巡回指導員が活動開始
- 12月 青色回転灯を装備したパトロール車を導入。市内全域の巡回活動を開始
- 平成18年1月 不審者情報などを保護者の携帯電話に連絡する学校情報配信システムを運用開始
- 8月 市とヤマト運輸㈱が「防犯協力に関する覚書」を締結（現在は19事業者と締結）
- 9月 通学路防犯パトロールを開始。専用車両として「青パト」6台を導入
- 平成19年10月 成田市防犯まちづくり推進条例が施行、同推進協議会を設置
- 平成20年2月 成田市防犯まちづくり推進計画を策定
- 4月 成田市駅前番所（えきばん）が業務開始

行動

街が静まりつつある夜8時。
暗闇を照らすパトロールが始まった



巡回に向かうパトロール隊。青色合図灯が暗かりを照らす



公園は要チェック場所

我々がやらなければ

「それじゃあ行きましようか」。蛍光ベストを身に着け、青色合図灯を持った面々が、夜の街へ溶け込んでいく。総勢40人。郷部美郷台防犯パトロール隊の発だ。同隊は5班に別れ、それぞれ郷部、郷部第2町内、美郷台1・2・3丁目を巡回する。

郷部・美郷台地区では、以前から車上狙いや空き巣などの犯罪が多発していた。これに警戒感を強めた区や自治会、町内会の役員が中心となって、平成18年9月、自主パトロール隊を組織した。「成田地区としては、既存のパトロールもあったのですが、我々の所までは回ってこない。町内会レベルで対応していかなければならぬと考えた」と話すのは、同隊長の阪本繁昭さん。立ち上げに際しては、不安に思っていることや気を付けなければならぬことを事細かに成田警察署に相談した。

違法駐車には「貼り紙」

巡回では「パトロール報告書」を携帯する。地区内のポイントを地図に落とし込んだもので、気付いたことや注意事項を書き込み、次回に引き継ぐためのものだ。対象に番号を振ったり、色分けしたりと見やすいように工夫され、危険箇所を把握するための「防犯診断」に役立っている。

防犯灯のチェックも欠かさない。切れていればすぐ手配するのはもちろんだが、汚れなどによる感知機能の不具合で昼間付きっ放しになっているものもある。そうした点の確認は、限られた経費で運営される自治会などにとって、省エネや耐用年数の面で「重要」という。

数が多く、住民も頭を悩ませていた違法駐車には、自前で作成した「駐車禁止」の貼り紙を車のワイパーに挟むようにした。確認した日時と車両番号が記入できるようにになっており、「常習者は警察に通報します」との警告の一文も。効果は絶大で、「一度警告を受けた人はもうしないのでは」「郷部区長の宮崎廣文さん）。違法駐車は以前に比べ、はるかに減った。

点から面の防犯へ

パトロール隊の活動は、住民の間にもだいぶ浸透してきた。前出の駐車禁止の貼り紙は各家庭にも配っており、パトロール以外でも貼ってもらおうようにしている。また、朝夕にウォーキングや犬の

インタビュー Interview



郷部美郷台防犯パトロール隊
隊長 阪本 繁昭さん

「やりがい感じている」

毎月第3土曜日の夜間に1時間程度、各区の実情に応じたやり方でパトロールを続けています。「不審者が減った」「街が明るくなった」という声も届くようになり、やりがいを感じています。今後は、若い人たちも協力してもらい、回数を増やしていきたいですね。



柴田 礼子さん(美郷台)
陸くん・美空ちゃん

「安心できます」

パトロール隊の皆さんに感謝しています。特に小さい子を抱えている家庭にとって、「見回りしてくれている」と思うと安心感が違いますね。子どもも「パトロールのおじさんと話したよ」って喜んでいるんですよ。

同地区の美郷台3丁目では、シニアクラブ(老人クラブ)もパトロール隊に負けじと夜間の見回りをしている。会の設立は今年3月。わずか4人でのスタートだったが、手分けして各戸を勧誘に回るうちに徐々に会員が増加し、現在は35人。うち過半数は女性だ。

「それぞれの出身や仕事などの違いのためか、うちの町内は住民同士の横のつながりが弱いと感じていました。親睦を図るためにも、まとまって何かできないかと思って。クラブ立ち上げの経緯を会長の佐瀬房雄さんはこう話す。町内会からも望む声があったといい、「せっかくなら地域の役に立つことを」と活動の軸に夜間のパトロールを選んだ。

「住民間のつながり」という面では早速成果が上がった。参加すれば歩いていく間に自然と会話も弾む。パトロールが定期的に顔を合わせる一つの機会となつて、会員間の交流に一役買っているのだ。結果として、町内会のほかの行事への参加者も目に見えて増えてきた。

住民間の親睦を図りたい

同地区の美郷台3丁目では、シニアクラブ(老人クラブ)もパトロール隊に負けじと夜間の見回りをしている。会の設立は今年3月。わずか4人でのスタートだったが、手分けして各戸を勧誘に回るうちに徐々に会員が増加し、現在は35人。うち過半数は女性だ。

「義務や押し付けでは、うまくいかない、続かない」と佐瀬さんも強調する。「このようにつながり広がれば、3回と増やしていければ、焦らず気長にやっていきたいですね」。こうした肩肘張らない活動も、これからは必要とされてくるかもしれない。

できる人ができることを

クラブの活動方針は「できる人ができることを」。

チェック

1

始めよう「自主パトロール」

地域の安全を守るためには、住民の手によるパトロールが効果的です。市では、パトロールを実施する団体を支援するため、必要な用品を無料で貸し出ししています。対象となるのは、市内の住民団体などで、市内を区域とする防犯パトロールを月に1回以上実施する団体です。

<貸出用品>

- ・防犯パトロール用ベスト・青色合図灯・車用蛍光マグネット・防犯腕章
- ※くわしくは交通防犯課(☎20-1527)へ。





「今日のご飯は何かな」。思い思いの会話を交わし帰路につく(遠山小学校)

見守り

From the site

2

から
見守り

子どもたちの笑顔のために。 大人は何ができるのか

地域の「一員」として

「こんにちは。今日みんなとおうちまで一緒に帰る空港機動隊です。よろしくお願ひします」

三里塚に居を構え、空港の円滑な運用と安全確保を担う千葉県警成田国際空港警備隊。その第五空港機動隊の有志が、非番の日を利用して、付近の小中学校の下校時に児童の付き添いをしている。

児童たちに交じって歩く若い隊員の姿は、地元でもすっかりおなじみの光景だ。

活動を始めたのは、平成17年12月。同月発生した栃木県旧今市市での「小1女児誘拐殺害事件」は、ごくありふれた地方都市での事件だったこともあり、「同じことが身の回りで起きてしまうかも」と世間を震撼させた。同隊でも事件の報道を受け、「一住民として自分たちにできることはないか」との声が自然と上がったという。すぐさま三里塚・遠山・本城各小学校や市役所と、帰宅ルートや防犯資機材について調整し、メンバーを募ったところ、多くの隊員が賛同した。

これまで月1回、毎回30人程度が参加している。星野雅春第五空港機動隊長は、「組織としてはなく、あくまでも隊員の自発的な参加に委ねている」と話す。

その日を心待ちに

児童にとって、隊員たちは「頼もしい存在」だ。遠山地区の通学路には、交通

チェック

2

危険を感じたら

「こども110番の家」



危険を感じて助けを求めてきた子どもを保護し、警察などに連絡してもらう家庭や商店。目印にステッカーを掲げています。現在、通学路を中心として、市内全域の2,000カ所以上が協力しています。

地域との「絆」

「テストで百点取ったんだよ!」この

量が多く危険な箇所が多い。また、幹線道路を外れると人気がまばらな所もある。そうしたところをチェックし、ただ一緒に歩くのではなく、危険が及ばないよう十分に気を配ってくれている。

児童も、隊員たちとの下校を楽しみにしている。年齢が20〜30代と若手が多く、児童たちにとって隊員は「おもしろいお兄さん」といった存在。多少悪ふざけをしても、嫌な顔をせず相手にしてくれる。遠山小の湯浅寛校長も「貴重な休日や充ててくれて感謝しています。子どもたちも楽しみにしているんですよ」と話す。

花知ってる?」。他愛のない会話を交わしながら家路へ。隊員の方にもここにこと応じ、笑顔が絶えない。

「パトロールのお兄さん、いつもありがとう、という手紙をもらったこともあります。励みになりますよね。これからは地域の一員として『絆』を深めていけたら」と星野隊長。

「子ども受けする話題を考えていたら、逆に『お兄ちゃん彼女いるの?』なんて、からかわれたりするんですよ。夜勤明けなんで、正直疲れがあります。でも、子どもたちの笑顔にふれると吹っ飛んじゃいますね」

若手隊員の一人は、照れながらも誇らしげに笑った。

わたしたちも“笑顔”見守っています



並野花会(並木町)

活動日：第3月曜日の下校時

開始年：平成12年

会員数：103人

わたしたちは並木町の老人クラブです。平成小の通学路で信号や交差点に立ったり、子どもたちに付き添ったりしています。別の曜日に実施している、区の役員と合同で活動することもあります。子どもたちの元気な姿を見るのが、何よりの楽しみですね。



コスモス会(高岡)

活動日：毎週木曜日の登下校時

開始年：平成15年

会員数：122人

PTA、社会福祉協議会、老人クラブのメンバーで会を組織しました。毎回4・5人で、高岡小の通学路を車2台で巡回しています。始めてから変質者なども少なくなり、犯罪の抑止効果を感じています。これからも「高岡では事件は起こさせない」との気持ちで続けていきます。

警察官OBの力

青色回転灯を装備したパトロール車両、通称「青パト」。防犯を呼び掛けながら市内を巡回している様子は、多くの人が目にしたことがあるだろう。

その青パトの運行指揮を執っているのが、市の非常勤職員である5人の元警察官「青少年育成指導員」だ。PTAや一般公募者などから組織される「防犯巡回指導員」のまとめ役を務め、彼らと一緒に日々巡回活動を行っている。

青少年育成指導員の活動は、防犯巡回指導員制度が発足したのと同じく平成16年に始まった。防犯活動の知識や経験のない人たちが防犯巡回指導員として活動を行うことは、当初から不安視されていた。

「事件や非行に直面した場合、どの程度まで関与していいのか」「トラブルに巻き込まれはしないか」

研修を重ねても、実際の現場では予期せぬことが起こる。そこで、長年にわたり培われた経験を生かしてもらおうと白羽の矢が立ったのが、警察官OBだった。

発足当初から防犯巡回指導員を続ける柏川誠市さん(飯田町)は「おかしいなと思ったときには、相手に声を掛ける必要がありますが、実際にはなかなか難しい。その点、青少年育成指導員は接し方が実にうまい。情報もたくさん持っているし、頼りになりますね」と話す。

抑止

From the site
3
から現場

光るプロの目。築かれる防犯力

情報に基づき即座に指示を出す。青少年育成指導員は青パト運行の司令塔だ



チェック

3

駅付近の安全確保を

市営交番 「えきばん」

毎日、大勢の市民が利用するJR成田駅。その西口周辺には学習塾が多く、子どもたちが夜遅くまで通っています。

そこで、子どもたちや駅利用者の安全確保を望む声に応え、万一の事件・事故発生時の駆け込み場所として「成田市駅前番所」(えきばん)が今年4月に開所しました。

「えきばん」には、警察官経験者である「えきばん員」6人が勤務。毎日午後6時～午前0時に2人体制で立番と西口ロータリー内の巡回を行い、犯罪の未然防止に努めています。えきばん員の工藤孝順さんは「何かあったら気軽に声を掛けてください」と呼び掛けています。
※くわしくは交通防犯課(☎20-1527)へ。



防犯重点箇所では徒歩でも警戒

張り巡らされる防犯の目

青パトが巡回しているのは市内全域だ。通常は、青少年育成指導員と防犯巡回指導員が共に乗り込んでの2人体制。

市内を6ブロックに分け、偏りがでないようにルートを決定し、平日の午前10時・午後2時・午後5時30分から各2時間ほど回る。

不審者情報などが寄せられた地区は、重点的にパトロールし、駅付近などは徒歩でも回っている。また、通学路は専用の青パト6台がそれぞれ巡回している。

こうして市内の隅々にまで防犯の目が張り巡らされる。実際、巡回したルートを地図に落としてみると驚くほどきめ細かいことが分かる。

犯罪抑止を担う上で、もう一つの強みは「迅速さ」だ。青少年育成指導員には、地域・学校・警察などから、さまざまな情報が集まってくる。それらを的確に集約・分析し、素早い行動につなげている。今年9月に小御門小学校付近で起こった不審者出没事例では、その迅速ぶりが関

係者を驚かせた。一報を受けた防犯事務所と各車両が連絡を取り合い、10分足らずで現場に4台の青パトが駆け付けたという。同校の横島忠治校長も「素早く対応してくれて感謝しています。警察より早かったくらい。ちゃんと見ていてくれると思うとやっぱり心強いですね」と話す。

地域に根付く活動

スタートから4年たち、地域にも随分と活動が認識されるようになった。行き交う人からは「苦勞さまで」と声を掛けられるようになった。子どもたちからは「がんばってね」と手が振られる。地域のパトロール隊や学校ともコミュニケーションが図られている。青少年育成指導員の一人、茂手木嘉行さんは「始めたころは、あれ何?と奇異なまなざしが向け

防犯は継続なり

JR成田駅西口にある青少年育成指導員の活動拠点である防犯事務所。ここにはその日あったこと、気付いたことが詳細に書き込まれた日誌や関係機関からもたらされた情報をつづった書類の束がある。これらは指導員の地道な活動の成果を物語っている。

「警察官としての知識・経験や指導員として蓄積してきたものを、防犯巡回指導員さらには住民に伝え、共有していくことが我々の役目。『防犯は継続なり』という言葉の通り、小さなことでも少しずつ積み重ねていきたい」と茂手木さん。その目には確かな自信に裏打ちされた光が見えた。

防犯まちづくりの推進 自らの手で

「地域の安全は地域の手で」。自主的に見回りなどに取り組む活動が市内でも広がりを見せ、その数は現在50を超えています。「防犯まちづくりの推進」に必要なこととは何か。活動を通して見えてきた成果や問題点とは一自主防犯パトロール隊3団体12人に市長が加わり、活発な議論を交わしました。(7月24日・市役所中会議室)

◆団体紹介：①設立年 ②会員数 ③活動回数



川栗区パトロール隊
会長 **神崎 義夫**さん
①平成15年 ②25人 ③月3回



公津の杜パトロール隊
代表 **小檜山 勝雄**さん
①平成17年 ②4人 ③月2回

月3回、美化や不法投棄の監視も兼ねてパトロールをやっています。勤め人が多いので日曜日に活動していますが、これから定年退職した人が加わり隊員の数が増えれば、子どもたちの安全を守るといこととで通学の時間帯にもやろうと考えています。

見回りをしていて目に付くのは、交通量の多さです。それにより、生活道路が渋滞を避けるための抜け道になってしまっています。道路が良くなったということ、車がスピードを結構出すようになったこと、そういうところが通学路になっているというのは、やっぱり恐いですね。地域の安全を守るには、交通の面からも改善してい

「犯罪抑止の一助に」

なければいけないと思います。

パトロール中には、防犯ベストや腕章を付けているんですが、これをしていると反応が随分違いますね。やっぱり、相当犯罪抑止力が働くんだと。タクシーの後ろに付いている「防犯パトロール実施中」というシールもいくらか違うのかなという感じがしています。一時より不審車両が少なくなりましたからね。

それと、ラジオを聞きながらパトロールをしていたことがあったんですが、無線かなんかをやっていると思ったんですけど、そのときに注意した人は、最近見なくなりました。そういうものもある程度は役に立つのかなと感じています。

新興住宅街なので、ご近所同士の付き合いというのが、ちょっと薄いのかなと感じています。それだけ不審者とか泥棒に、つけ込まれるところがあるんじゃないでしょうか。

知らない人が通っていても、住人かと思って、特に声を掛けないんですね。昔からの地域だと「こんにちは」とか「何かお探ですか」って声を掛けるのでしょが…。

我々のことは住民も知っているの、あかさつすれば返してくれます。でも、全然知らない人から「おはよう」とか「お帰りなさい」とか言われても返さないうすよね。もう知らない人には声を掛けないというふうにだんだん変わってしまった。

「地域挙げて取り組みを」

住民同士の交流がもっと必要だと感じています。自治会でも毎年納涼祭をやっています。そうした行事でどんどん交流を図る。やっぱりコミュニケーションの良いまちというのは、犯罪も少ないですよ。

PTAでも朝と夕方、毎日通学路パトロールをしています。しかし、全部目が行き届くというわけにはいきません。防犯はパトロール隊だけではなかなかできないし、PTAだけでもできません。地域を挙げて協力しながらやっていく、そうした態勢をとれる所が結果として犯罪も少ないし、交通事故も少ない。皆さんに声を掛けて活動を広げ、今後は公津の杜全体でパトロールできればと考えています。

まちづくり茶論

政策的な課題について市民が市長を囲んで意見交換をする場。平成19年度スタート。「茶論」は「お茶を飲みながら和やかな雰囲気」をモットーにネーミングされた。今年度は「防犯まちづくりの推進」(7月24日)、「まちづくりへの市民参加」(8月21日)、「消防団活性化対策と正しい救急車の利用法」(10月16日)について開催したほか、「介護・健康」「農業」「子育て」の各テーマを予定。
※くわしくは市民支援課(☎20-1507)へ。

まちづくり茶論 テーマ 地域の安心



小泉一成 成田市長



加良部防犯パトロール隊

隊長 嶋村 清さん

①平成19年 ②10人 ③週2・3回

良きまちづくりの基本は、市民の身体・生命と財産の安心です。秋葉原などでの無差別殺人に見られるように、以前では信じられない犯罪が発生しています。安心して住めるまち、犯罪の少ないまちというのが、非常に評価される時代になってきているのではないのでしょうか。

成田にもJR成田駅西口に市営交番「駅前番所」(えきばん)を設置しました。塾が多く児童・生徒が夜遅くまでいるというところ、自転車などの盗難が多いということでも設置しましたが、おかげさまで犯罪の件数が減少しているとのこと。

しかし、真に防犯まちづくりを推進するには、地域それぞれの取り組みこそが

「自主的な活動こそ重要」

大切です。皆さんの自主的な活動が、犯罪を起こそうとする者への強い抑止力となり、安心感につながっています。さらに、防犯のみならずさまざまな波及効果を生んでいます。こうした活動は、今後ますます重みを持つてくるでしょう。

まさに「地域ぐるみ」で進めていかなければなりません。成田警察署長に伺ったところ、県内例えば東葛地区というと、110番が毎日鳴りつ放しだそうです。成田に来て驚いたのは、ほかと比べて通報が少ないことといます。それは、市の努力というよりも、市民の皆さんによる自主的なパトロールのおかげ、まさにそれに尽きるものと思っています。

小学生の登下校を重点的に見守っています。学校から下校時刻表をもらい、週に2、3回ですね。

初めは、どういうふうにも子どもと接しづらいのか、分からない部分もあったんです。声を掛けても見慣れないからでしょうか、「何だ」というような顔をされたりね。でも続けていくうちに、子どもたちの方から「苦労さま」「さようなら」とあいさつしてくれるようになった。今では、スーパーなんかでも「ああ、パトロールのおじちゃんだ」って声を掛けられますよ。

地区には老人会などもあります。でも、そこで防犯活動をするとなると、足が悪くていけない、腰が痛くてやれないという

「継続には気持ち必要」

人が当然出てきます。そうすると、動けない人に気を遣わせてしまつことになる。そういう意味では、既存の会を当てにしないというか、会の枠に関係なく、実際に動ける人でやっていくのがいいのではと思います。

続けていくには、ボランティア精神も必要です。週2、3回となると、体力的にもなかなかやれません。「子どもたちを守るために、少しでも役に立ちたい」。そんな気持ちが何よりも必要でしょう。また、活動にはいくらでもお金が掛かります。今のところ、どこからも援助をいただいていませんが、そうした面も考えていかなければなりませんね。

特集の終わりに

わたしたちが日々生活していく上で欠かすことのできないもの。それは「安全安心」です。しかし今、その「安全安心」が脅かされています。

全国で相次ぐ痛ましい事件の発生は、いつ同じことが身の回りで起きてもおかしくはないということ、日常で半ば当然視されてきた「安全安心」というものが過去のものとなってしまったことを、わたしたちにあらためて知らしめました。

そうした中、「自分たちの安全は自分たちで」と行動を起こした地域があります。「子どもたちの笑顔のためにできること」と通学路を見守っている人たちもいます。行政もまた、市民ぐるみで安全安心を実現しようと各種施策を推進していきます。

「安全安心」―市民皆の切実な願い―。ゴールはないのかも知れません。ただ、そのために「何かしなければならぬ」ということも皆が分かっています。

一人一人の防犯に対する芽(目)がやがて大きな木(力)となる―その日はすぐそこまで来ているのだと思います。

